

改正資源有効利用促進法施行後の取組状況

【特定再利用業種】

平成 1 4 年 7 月 1 8 日

産業構造審議会 廃棄物・リサイクル小委員会

業種名	省令判断基準項目	取組状況(法改正後の主要措置)																				
1. 紙製造業	<p>1. 事業者の取組事例</p> <p>(1) 設備の導入</p> <p>(2) 技術の向上</p> <p>2. 業界としての取組</p> <p>3. 古紙利用率の向上 (法定目標：17年度までに60%)</p>	<p>古紙パルプの高白色度化対応設備や高効率異物除去設備を導入し、比較的古紙の利用が進んでいない印刷情報用紙への古紙利用を拡大し、利用率全体の向上に取り組んでいる。</p> <p>古紙における繊維分の収率向上に加えて、古紙に含まれる填料(無機質分で現状ではセメント原料等に利用)を再度製紙原料化するための技術の開発に取り組んでいる。</p> <p>日本製紙連合会は、業界として2005年までに古紙利用率を60%に向上する目標を設定、「環境に関する自主行動計画」に組み込み、個別企業の自主的取り組みにより、その達成を目指している。</p> <p>また、紙パルプ技術協会では、製紙メーカー、古紙処理プラントメーカー、古紙処理薬品メーカーの技術関係者及び大学研究室等による古紙利用技術に係わる研究成果、技術開発状況について研究発表、情報交換を実施し、業界全体の古紙利用技術の向上を進めている。</p> <p>古紙利用率60%目標の初年度となる2001年度の進捗状況は、比較的順調な動きとなった。景気後退に伴う紙・板紙減産の逆風下において利用率は2000年度の57.3%から1ポイント上昇し58.3%に達した。</p> <p>また、古紙回収率は資源リサイクルへの社会的関心の高まりもあり、前年度の58.7%から62.9%にまで一気に上昇した。</p> <p>古紙利用率・回収率の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>1990年度</th> <th>1995年度</th> <th>2000年度</th> <th>2001年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>古紙利用率</td> <td>51.6%</td> <td>53.3%</td> <td>57.3%</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>古紙回収率</td> <td>49.8%</td> <td>51.4%</td> <td>58.7%</td> <td>62.9%</td> </tr> <tr> <td>紙・板紙生産</td> <td>28,538千トン</td> <td>29,819千トン</td> <td>31,742千トン</td> <td>30,352千トン</td> </tr> </tbody> </table>	年 度	1990年度	1995年度	2000年度	2001年度	古紙利用率	51.6%	53.3%	57.3%	58.3%	古紙回収率	49.8%	51.4%	58.7%	62.9%	紙・板紙生産	28,538千トン	29,819千トン	31,742千トン	30,352千トン
年 度	1990年度	1995年度	2000年度	2001年度																		
古紙利用率	51.6%	53.3%	57.3%	58.3%																		
古紙回収率	49.8%	51.4%	58.7%	62.9%																		
紙・板紙生産	28,538千トン	29,819千トン	31,742千トン	30,352千トン																		

業種名	省令判断基準項目	取組状況(法改正後の主要措置)
2. 硬質塩化ビニル製の管又は管継手の製造業	<p>1. 事業者の取組事例</p> <p>2. 業界としての取組</p>	<p>リサイクル三層管について4社が製品開発、用途開発、販売体制作りを実施した。(平成14年7月発売予定)</p> <p>()リサイクル三層管 内層、外層にはバージン樹脂、中間層にリサイクル材料を使用した再生管のこと(再生原料使用比率70%)。中間層のリサイクル材は発泡させない通常の樹脂層となっている。下水道本管に取り付ける取付管、塩ビ製ます・マンホールの上立ち上がり部、敷地内の排水管などの用途に使用される。</p> <p>受入拠点の拡大 リサイクル協力会社を、15社18拠点から16社21拠点に増強した。また、中間受入場も全国に32拠点設置し、その結果沖縄県を除く全都道府県に最低1カ所合計53カ所の受入拠点ができた。</p> <p>リサイクル三層管の規格化 平成13年9月にリサイクル管の塩化ビニル管・継手協会規格としては3番目の「下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管(RS-VU)A S62」を制定した。</p> <p>設備の導入 塩化ビニル管・継手協会は、リサイクル協力会社3社に対して、塩ビ管・継手等の受入範囲を拡大するため、また、受入量の増加に備え、粉砕機の設備支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来は、大口径管が粉砕出来なかったが、新たな設備導入で粉砕が可能となった。(従来：直径250mm 導入後：直径600mm) ・従来は耐衝撃性管の粉砕ができなかったが、新たな設備導入で粉砕が可能となった。 <p>(従来の粉砕能力：350kg/h/台 導入後の粉砕能力：1,150kg/h/台)</p>

業種名	省令判断基準項目	取組状況(法改正後の主要措置)																																																																																								
3. ガラス容器製造業	1. 事業者の取組事例 (1) 設備の導入 (2) 技術の向上 (3) 品質向上 (4) システム開発 2. 業界としての取組	<p>カレット商2社において、非鉄金属除去機、陶磁器類選別機等を導入し、カレット処理設備の整備を行った。これによりカレットの品質向上を図っている。</p> <p>カレット利用率の向上を図るため、日本ガラスびん協会では、業界統一カレット受入品質規格を改訂した。平成13年度は暫定規格を適用し、14年10月に新規格に移行するため、品質データの集積を行った。より厳しい「業界統一カレット受入品質規格」が適用されることにより、びんメーカーが最寄りのカレット商のカレットを利用できるようになり、流通の合理化が図られる。</p> <p>分別収集された空きびんに異物混入が多い市町村に対し、品質調査を行い、品質改善要請を行っている。その結果、市町村の努力により品質が改善された例がみられる。(ソースカレットの品質向上)</p> <p>ガラスびんリサイクル促進協議会において、国の委託事業としてガラスカレットの地域別の需要動向をホームページを利用して把握するシステムの開発を行っている(平成13~14年度)。</p> <p>日本ガラスびん協会技術委員会及びガラスびんリサイクル促進協議会では、業界として、資源有効利用促進法の省令(判断基準)の「2005年度までにカレット利用率80%に向上」の目標に向けた具体的手法の検討を開始した。</p> <p>参考 ガラスびん生産量、カレット使用量推移</p> <div data-bbox="961 894 2119 1486" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>ガラスびん生産量、カレット使用量</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>ガラスびん生産量 (千トン)</th> <th>カレット使用量 (千トン)</th> <th>カレット利用率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4年</td><td>2,370</td><td>1,332</td><td>56.2</td></tr> <tr><td>5年</td><td>2,351</td><td>1,305</td><td>55.5</td></tr> <tr><td>6年</td><td>2,440</td><td>1,357</td><td>55.6</td></tr> <tr><td>7年</td><td>2,233</td><td>1,369</td><td>61.3</td></tr> <tr><td>8年</td><td>2,210</td><td>1,436</td><td>65.0</td></tr> <tr><td>9年</td><td>2,160</td><td>1,456</td><td>67.4</td></tr> <tr><td>10年</td><td>1,975</td><td>1,459</td><td>73.9</td></tr> <tr><td>11年</td><td>1,906</td><td>1,498</td><td>78.6</td></tr> <tr><td>12年</td><td>1,820</td><td>1,416</td><td>77.8</td></tr> <tr><td>13年</td><td>1,738</td><td>1,425</td><td>82.0</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="949 1556 2131 1724" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> <th>7年</th> <th>8年</th> <th>9年</th> <th>10年</th> <th>11年</th> <th>12年</th> <th>13年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ガラスびん生産量</td> <td>2,370</td> <td>2,351</td> <td>2,440</td> <td>2,233</td> <td>2,210</td> <td>2,160</td> <td>1,975</td> <td>1,906</td> <td>1,820</td> <td>1,738</td> </tr> <tr> <td>カレット使用量</td> <td>1,332</td> <td>1,305</td> <td>1,357</td> <td>1,369</td> <td>1,436</td> <td>1,456</td> <td>1,459</td> <td>1,498</td> <td>1,416</td> <td>1,425</td> </tr> <tr> <td>カレット利用率</td> <td>56.2</td> <td>55.5</td> <td>55.6</td> <td>61.3</td> <td>65.0</td> <td>67.4</td> <td>73.9</td> <td>78.6</td> <td>77.8</td> <td>82.0</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>単位:千トン、%</p> <p>出所 雑貨統計、日本ガラスびん協会、ガラスびんフォーラム</p>	年	ガラスびん生産量 (千トン)	カレット使用量 (千トン)	カレット利用率 (%)	4年	2,370	1,332	56.2	5年	2,351	1,305	55.5	6年	2,440	1,357	55.6	7年	2,233	1,369	61.3	8年	2,210	1,436	65.0	9年	2,160	1,456	67.4	10年	1,975	1,459	73.9	11年	1,906	1,498	78.6	12年	1,820	1,416	77.8	13年	1,738	1,425	82.0		4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	ガラスびん生産量	2,370	2,351	2,440	2,233	2,210	2,160	1,975	1,906	1,820	1,738	カレット使用量	1,332	1,305	1,357	1,369	1,436	1,456	1,459	1,498	1,416	1,425	カレット利用率	56.2	55.5	55.6	61.3	65.0	67.4	73.9	78.6	77.8	82.0
年	ガラスびん生産量 (千トン)	カレット使用量 (千トン)	カレット利用率 (%)																																																																																							
4年	2,370	1,332	56.2																																																																																							
5年	2,351	1,305	55.5																																																																																							
6年	2,440	1,357	55.6																																																																																							
7年	2,233	1,369	61.3																																																																																							
8年	2,210	1,436	65.0																																																																																							
9年	2,160	1,456	67.4																																																																																							
10年	1,975	1,459	73.9																																																																																							
11年	1,906	1,498	78.6																																																																																							
12年	1,820	1,416	77.8																																																																																							
13年	1,738	1,425	82.0																																																																																							
	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年																																																																																
ガラスびん生産量	2,370	2,351	2,440	2,233	2,210	2,160	1,975	1,906	1,820	1,738																																																																																
カレット使用量	1,332	1,305	1,357	1,369	1,436	1,456	1,459	1,498	1,416	1,425																																																																																
カレット利用率	56.2	55.5	55.6	61.3	65.0	67.4	73.9	78.6	77.8	82.0																																																																																

